

# 認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

## 分野：緩和ケア

平成24年3月改正

平成29年3月改正（共通科目のみ）

平成31年4月改正

令和3年3月改正（共通科目のみ）

### （目的）

1. 緩和ケアを受ける患者とその家族のQOL向上に向けて、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 緩和ケアの領域において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 緩和ケアの領域において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

### （期待される能力）

1. 患者を全人的に理解し、QOLを維持・向上するために、専門性の高い看護を実践できる。
2. コミュニケーションスキルを用いて緩和ケアを受ける患者・家族の価値観を理解し、患者・家族の価値観を尊重したケアを実践できる。
3. 患者と家族の喪失・悲嘆に対する適切な支援を行うことができる。
4. 緩和ケアを受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. 緩和ケアを受ける患者・家族への看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。

## 教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15	小計 105	105 (+305)
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15		
	7. 指導	必修	15		
	8. 特定行為実践	選択	15	小計 305	
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15		
	19. 対人関係	選択	15		
専門基礎科目	1. 緩和ケア総論	必修	15	小計 75	270
	2. がんとがんの集学的治療	必修	15		
	3. 症状マネジメント総論	必修	15		
	4. 喪失・悲嘆・死別	必修	15		
	5. がんの医療サービスと社会的資源	必修	15		
専門科目	1. 症状マネジメントと援助技術Ⅰ	必修	15	小計 195	
	2. 症状マネジメントと援助技術Ⅱ（消化器症状のマネジメント）	必修	15		
	3. 症状マネジメントと援助技術Ⅲ（呼吸器症状のマネジメント）	必修	15		
	4. 症状マネジメントと援助技術Ⅳ（リンパ浮腫のマネジメント）	必修	15		
	5. 症状マネジメントと援助技術Ⅴ（皮膚・粘膜トラブルのマネジメント）	必修	15		
	6. 症状マネジメントと援助技術Ⅵ（精神症状（不安・せん妄・抑うつ）、睡眠障害）のマネジメント	必修	15		
	7. 症状マネジメントと援助技術Ⅶ（倦怠感・悪液質のマネジメント（マッサージ、リラクゼーションなど））	必修	15		
	8. 緩和ケアを受ける患者の心理社会的ニーズとケア	必修	15		
	9. スピリチュアルケア	必修	15		
	10. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	必修	15		
	11. 緩和ケアを受ける患者の家族・遺族ケア	必修	15		
	12. 臨死期のケア	必修	15		
	13. 緩和ケアにおける倫理的課題	必修	15		
学内演習・臨地実習	1. 総合演習	必修	30	小計 240	
	2. 総合演習Ⅱ	必修	30		
	臨地実習	必修	180		
			総時間数	615 (+305)	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態※ 評価方法※
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★  [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題  ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★  [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 <sup>※1</sup> 評価方法 <sup>※2</sup>
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習  ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む）  [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 <sup>※1</sup> 評価方法 <sup>※2</sup>
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習  ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む）  [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習  ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む）  [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 <sup>※1</sup> 評価方法 <sup>※2</sup>
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接)  [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技)  [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 <sup>※1</sup> 評価方法 <sup>※2</sup>
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習  [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。  
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html> )

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 基 礎 科 目	1. 緩和ケア総論	ホスピス・緩和ケアとそれに関係する概念を理解した上で、緩和ケアの専門性と緩和ケアに従事する看護師の役割を理解する。 さらに、緩和ケアの対象拡大を踏まえ、緩和ケアにおける看護師の専門性の広がりをも理解する。	<b>1) ホスピス・緩和ケアの歴史と理念、現状と展望</b> 2) ホスピス・緩和ケアに関する概念・定義(ホスピスケア、緩和ケア、エンド・オブ・ライフ・ケア、ターミナルケア、支持療法等) 3) 緩和ケアの対象(生命を脅かす疾患による問題に直面している患者・家族) 4) 緩和ケア提供の時期(苦しみを予防すること) <b>5) トータルペインの概念と全人的な理解</b> 6) QOL の概念と QOL を高めるためのケア <b>7) 対象を理解するために必要な概念(自己効力感・危機理論・セルフケア理論・ストレスコーピング・病気の不確かさ理論等)</b> 8) ホスピス・緩和ケアの専門性と看護師の役割	15
	2. がんのがんの集学的治療	がんの疫学と病態生理を理解し、がんの診断と集学的治療の必要性、主要な治療の基礎を理解する。	<b>1) がん細胞の特徴</b> <b>2) がんの疫学</b> <b>3) がんの診断</b> <b>4) がんの予防と検診</b> <b>5) がんの集学的治療</b> <b>手術療法・薬物療法・放射線療法</b> <b>免疫療法</b>	15
	3. 症状マネジメント総論	患者主体の症状マネジメントの必要性和症状マネジメントにおける看護師の役割を理解する。	1) 患者主体の症状マネジメントの必要性 2) 症状マネジメントモデルの理解 3) 症状マネジメントの統合的アプローチ 4) 予防(取り除くことが可能な原因の除去、取り除くことが不可能な場合の対応) 5) ヘルスアセスメント <b>(1) フィジカルアセスメント(呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等)</b> (2) 精神・心理的アセスメント (3) 社会的アセスメント	15
	4. 喪失・悲嘆・死別	1) 喪失・悲嘆・死別について理解し、患者・家族に対して必要なケアを考える。 2) 看護師自身の喪失・悲嘆について理解する。	1) 死と死にゆくプロセス 2) 喪失・悲嘆・死別・服喪の理解 3) 悲嘆のアセスメント (1) 予期悲嘆 (2) 通常の悲嘆 (3) 複雑性悲嘆 4) 悲嘆や死別に対するケア (1) 患者の悲嘆に対するケア (2) 家族の悲嘆・死別に対するケア (3) ケア提供者の悲嘆・死別に対するケア	15

※ゴシック体表記は、がん化学療法看護またはがん性疼痛看護との合同講義が可能な単元



教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	5. がんの医療サービスと社会的資源	がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解し、看護師の役割を明確にする。	<b>1) がんの医療政策</b> <b>(がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬など)</b> <b>2) 在宅医療の仕組みと法的枠組み</b> <b>3) 在宅医療を支える職種間の連携</b> <b>4) がん患者とその家族が活用できる社会資源</b> <b>(高額療養費制度、在宅酸素療法等)</b> <b>5) がんと医療経済</b> <b>(治療費、就労問題等)</b> <b>6) 在宅で療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割</b>	15

※ゴシック体表記は、がん化学療法看護またはがん性疼痛看護との合同講義が可能な単元

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 科 目	1. 症状マネジメントと 援助技術Ⅰ	疼痛を理解し、苦痛を最小限にするための援助技術を習得する。	1) 疼痛の分類・機序 2) 疼痛の薬物療法 (WHO 方式がん疼痛治療法など) 3) 痛みの包括的評価 (QOL に与える影響を含む) 4) 薬物療法以外の疼痛治療法 5) 疼痛マネジメントのための患者・家族教育 6) 疼痛閾値を高めるためのケア	15
	2. 症状マネジメントと 援助技術Ⅱ (消化器症状のマネ ジメント)	消化器症状を理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) 消化器症状 (悪心・嘔吐、食欲不振、腹部膨満、便秘など) のメカニズム 2) 主な消化器症状に対する治療 3) 消化器症状のアセスメントとケア 4) 事例検討	15
	3. 症状マネジメントと 援助技術Ⅲ (呼吸器症状のマネ ジメント)	呼吸器症状を理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) 呼吸困難のメカニズム 2) 呼吸困難の治療 3) 呼吸困難感のある患者のケア (呼吸困難感を増強させないような日常生活援助を含む) 4) 事例検討	15
	4. 症状マネジメントと 援助技術Ⅳ (リンパ浮腫のマネ ジメント)	リンパ浮腫について理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) リンパ浮腫のメカニズム 2) リンパ浮腫の治療 3) リンパ浮腫に対するケアの原則 4) リンパドレナージの目的とケアの実際 (セルフケア指導を含む) 5) 演習	15
	5. 症状マネジメントと 援助技術Ⅴ (皮膚・粘膜トラブ ルのマネジメント)	皮膚・粘膜トラブルについて理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) 皮膚・粘膜トラブルのメカニズム 2) 皮膚・粘膜トラブルに対する治療 3) 皮膚・粘膜トラブルのアセスメントとケア 4) 演習 (口腔ケアなど)	15
	6. 症状マネジメントと 援助技術Ⅵ (精神症状 (不安・ せん妄・抑うつ)、 睡眠障害) のマネ ジメント)	精神症状について理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) 精神症状のメカニズム (不安・せん妄・抑うつなど) 2) 精神症状に対する治療 3) 精神症状のアセスメントとケアの基本的な考え方 4) 事例検討	15
	7. 症状マネジメントと 援助技術Ⅶ (倦怠感・悪液質の マネジメント (マッ サージ、リラクゼー ションなど))	倦怠感、悪液質について理解し、苦痛を最小限にし、QOL を高めるための援助技術を習得する。	1) 倦怠感、悪液質のメカニズム 2) 倦怠感、悪液質に対する治療 3) 倦怠感、悪液質のアセスメントとケア (気分転換、マッサージ、リラクゼーション) 4) 事例検討	15

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 科 目	8. 緩和ケアを受ける患者の心理社会的ニーズとケア	緩和ケアを受ける患者が主体的に生活できるよう、心理・社会面のニーズを理解し適切なケアを提供するための看護師の役割を理解する。	1) がんサバイバーシップの理解と各プロセスに特徴的な心理 2) 意思決定支援 3) アドバンス・ケア・プランニング 4) がん患者の心理社会的ニーズとケア 5) 補完代替療法を選択する患者へのケア	15
	9. スピリチュアルケア	緩和ケアを受ける患者のスピリチュアルケアの必要性について理解し、スピリチュアルペインのアセスメントおよび必要なケアを理解する。	1) 緩和ケアにおけるスピリチュアルケアの必要性 2) スピリチュアリティ・スピリチュアルペインの概念理解 3) スピリチュアルペインのアセスメント 4) スピリチュアルペインに対するケア 5) スピリチュアルケアに臨む看護師の姿勢	15
	10. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	緩和ケアにおいて連携・協働する多職種の専門性と役割を理解し、チームアプローチにおける看護師の役割と専門性を明確にする。	1) チームアプローチとは 2) 緩和ケアにおけるチームアプローチの必要性 3) チームにおける看護師の役割と専門性 4) ケアするスタッフの支援 (緩和ケア提供者に生じやすいストレスとその対処方法)	15
	11. 緩和ケアを受ける患者の家族・遺族ケア	緩和ケアを受ける患者の家族の全体像をアセスメントし、遺族ケアを含めた必要なケアについて理解する。	1) 家族の理解 家族の定義・家族ケアの目的 2) 緩和ケアを受ける患者の家族のニーズ 3) 家族の全体像のアセスメント 4) 家族の力を高めるケア 5) 遺族のケア	15
	12. 臨死期のケア	臨死期の特徴を理解し、患者・家族の尊厳を守りながら、その人らしい看取りを提供するためのケアを理解する。	1) 臨死期の身体徴候・症状とケア（鎮静） 2) 臨死期における看護師の役割 3) 臨死期における患者・家族の価値観を尊重するためのケア 4) 時期に応じた患者・家族のアセスメントとケアのポイント（予後予測） 5) 看取りにおける家族へのケア、エンゼルケア 6) 安楽のケア（comfort care） （日常生活支援含む） 7) 様々な場での看取り	15
	13. 緩和ケアにおける倫理的課題	緩和ケアにおける倫理的課題を理解したうえで、患者の価値観を尊重し、最善のケアを提供するための看護師の役割を理解する。	1) 緩和ケアにおける倫理的諸問題の理解 （鎮静・安楽死/尊厳死、治療の不開始/中止） 2) 倫理的な問題の解決へのアプローチ方法の理解と実際	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	1. 総合演習	緩和ケアを受ける患者・家族の価値観を尊重したケアのためのコミュニケーションスキルを習得する。	1) コミュニケーション技術の基本 2) 患者・家族の価値観を尊重するためのコミュニケーション 3) 全人的苦悩に向き合う力 (プレゼンス・真の共感) 4) 場面別コミュニケーション ・意思決定支援におけるコミュニケーション ・悪い知らせを伝える際のコミュニケーション等	30
	2. 総合演習Ⅱ	事例を通して自身の実践した看護を考察し、専門的緩和ケアにおける看護の役割を明確にする。	ケースセミナー (直接ケア 1 事例以上)	30
臨 地 実 習	臨地実習	緩和ケアの対象を包括的にアセスメントしたうえで、患者の苦痛の緩和を図ると共に QOL の向上を目指した質の高い看護を提供することができる。 看護実践では役割モデルを示すことができ、さらに、習得した技術を活用し、指導・相談を行うことができる。 また、専門的緩和ケアを提供する援助者としての自己の課題についても明らかにする。	実践事例 1 例以上・相談事例 1 例以上・緩和ケア実践に関わる研修会もしくは技術指導案を立案し実施する。 原則として、専門的緩和ケアを提供している以下のような施設において実践を行う。  1) 緩和ケア病棟 2) 訪問看護ステーション	180